

木村黙老の蔵書目録（一）

―多和文庫蔵『高松家老臣木村亘所蔵書籍目録残欠』上―

三宅 宏 幸

一、木村黙老の蔵書目録について

近世後期の小説家曲亭馬琴のいわゆる「三親友」が、伊勢松坂の殿村篠斎、小津桂窓、讃岐高松の木村黙老であることは周知のことであろう。馬琴は彼らと書翰のやりとりに加え、それぞれが所蔵する書籍の貸借も頻繁に行っていた。

その中の一人木村黙老（名は亘）は讃岐高松藩の家老をつとめた人物で、馬琴との交流は江戸在番中の天保頃よりはじまった。高松に帰藩してからも二人の関係は続き、馬琴を通じて篠斎や桂窓とも交わるようになる。馬琴が黙老を篠斎に紹介する際には、「書籍ハことの外好ミ候人ニテ、奇書多くとり入候。書籍御貸借には、至極可然候。」（天保六年正月一日付殿村篠斎宛馬琴書翰）と書き記しており、蔵書家であったことも知れる。歌舞伎や浄瑠璃などの演

劇、読本や合巻などの戯作に精通し、自身も大部の随筆「聞まの記」や戯作者の小伝「戯作者考補遺」などを著している。

黙老の蔵書目録については、木村三四吾氏「解題」（近世物之本江戸作者部類）、八木書店、昭63・5）が黙老関連の『近世物之本江戸作者部類』を考証する中で、鍋田三善編『静幽堂叢書』（宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵）に「讃藩黙老木村氏蔵書目録」が所収されることを紹介し、「巻初内題下の注記「天保辛卯」（天保二年）と巻末の「天保六乙未春」の記述から、「出府以来江戸在番中に蒐めたものの略目録」と結論づけている。木村氏の指摘を承け、神田正行氏「黙老旧蔵本『塩尻』と馬琴」（馬琴と書物―伝奇世界の底流―、八木書店、平23・8）も、木村氏の「推定」に「従うべきであろう」としている。

馬琴研究の面から概観すると、黙老の蔵書目録は『静幽堂叢書』所収「讃藩黙老木村氏蔵書目録」が知られるに留まっている。

そのような中、筆者は黙老の蔵書目録と思しき資料「高松家老臣木村亘所蔵書籍目録残欠」を香川県さぬき市志度の多和文庫で確認した。多和神社に併設される多和文庫は、幕末・明治期の神官、国学者であった松岡御調氏が蒐集した資料を収め、馬琴旧蔵の書籍を数点所蔵することも著名な文庫である^註。

ただし、本資料は新出というわけではない。管見の限りではあるが、「香川県史^⑮ 芸文」（四国新聞社、昭60・3）「概説」で、近石泰秋氏が「現在知られている讃岐国内の一、二の蔵書目録」として本資料に触れており、また多和文庫の目録を紹介した佐藤恒雄氏の論考「穆公詩文集『披雲閣文章』について（付、翻刻）」（『香川の歴史』10、香川県、平2・2）の中にも言及がある。しかしながら、資料の全体が紹介されたことはないようである。

以下に書誌事項を記す。

〔書名〕 高松家老臣木村亘所蔵書籍目録残欠

〔所蔵〕 多和文庫（香川県さぬき市志度）

〔函号〕 四二

〔冊数〕 一冊。

〔書型〕 縦一六・七×横四一・二種。

〔体裁〕 写本。紙縫綴。所々破れあり。

〔丁数〕 墨付二九丁。

〔年記〕 書名右に「明治三十五年十月十七日記」と記される。

〔備考〕 書翰（折紙）の紙背などを利用。楮紙。貼紙での修正、挟み紙もある。冊数の上に朱点あり。

近石、佐藤両氏は本資料を黙老の蔵書目録として認めているが、年記が黙老死後の「明治三十五年」であることから、真贋についても検証する必要があると筆者は考えている。しかし一方で、馬琴関連の書籍が目録内に多く見えることや（中に『新編（局）玉石童子訓 五冊』とあり、少なくとも弘化二年以降に作成された目録と思しい）、「木村亘様」宛書翰の紙背が利用されていること、一部に黙老の筆跡と思しき箇所もあることから、黙老に関わる目録である蓋然性が高い。破損もあり、十全の状態ではないものの、高松藩家老である黙老の蔵書構築の一端を知ることができる目録だとすれば、大変貴重な資料といえる。本稿で紹介する所以である。

なお、本資料は国文学研究資料館所蔵のマイクروفイルムに収められているが、四丁裏の途中から六丁表までは未撮影である。これは、五丁と六丁のほぼ半分が破れており、紙の繊維で前丁（四丁）に付着したまま捲られたためと思しい。よって、本稿の翻刻とマイクروفイルムの複写とで異なる点があることを付記しておく。

本資料の真贋の検証や文学研究における意義については、別稿を期したい。また、紙幅の都合で翻刻を二回に分けざるを得ず、今回は二丁表から一四丁裏までを翻刻し、一五丁表以下は次回に回す。

これは宮内庁書陵部に所蔵される「讚藩黙老木村氏藏書目録」掲載の書籍が三五〇余点であるのに対し（この目録についても今後紹介していく予定である）、本資料が一六〇点を越える書名を掲載していることに由来する。諒承頂ければ幸いである。

最後に、貴重な資料の翻刻掲載を許可して下さった、多和神社宮司の松岡弘泰氏に心より御礼申し上げます。

注

(1) 馬琴書翰は柴田光彦氏・神田正行氏編『馬琴書翰集成』（八木書店）に拠る。

(2) 小泉道氏「馬琴と『日本霊異記』——多和文庫本を中心に——」（『愛媛国文研究』22、昭47・12）、播本眞一氏「曲亭馬琴旧蔵『房総志料』について」（『八大伝・馬琴研究』、新典社、平22・3）、三宅宏幸「曲亭馬琴『殺生石後日怪談』の生成——『殿周革命説話』の構想を軸に——」（『愛知県立大学日本文化学部論集（国語国文学科編）』5、平26・3）など。

二、翻刻「高松家老臣木村巨所蔵書籍目録残欠」

【凡例】

- ・ 仮名遣いは原本に準じた。
- ・ 漢字は旧字体を新字体に改めた。
- ・ 割書されている書名は「 / 」で表した。
- ・ 各書名の右肩に朱で記された書名の頭文字のカナ、およびいくつかの書名の下に付された朱の○は、現段階では誰の筆跡であるかや○の基準が不明なため、今回は省いた。
- ・ 書名や補足の朱書き部分は「〜」で表した。
- ・ 原本に丁付はないが、末尾に（一オ）（一ウ）のように筆者が私に付した。
- ・ 判読不能の文字は□で表した。

【備考】

・ 目録中の番号の十九、二十、二十一、二十七、九十二番は破損箇所に記載された可能性が高い。しかし、三十番は理由は不明だがそもそも記載がない。

【翻刻】

〔明治三十五年十月十七日記〕

〔高松家老臣木村巨所藏書籍目錄殘欠〕

一 格致鏡原	五帙三十二冊	一 快心初二三編	一 一才
一 西遊記	二帙二十冊	一 合劍記	一 一才
一 台灣外記	一 帙八冊	一 太平広記	八帙六十四冊
二 番		一 新刊平匪記略	一 帙六冊
一 文鳳画譜	三 冊	五 番	
一 芥子園画伝	廿七冊	一 帝女華	一、二冊
一 白田雜著	八 冊	一 笠翁十種	二、二十冊
一 古今説海	廿四冊	一 拍案驚奇	一、八冊
一 二度梅	六 冊	一 笠翁一家全集	二、二十冊
一 武功紀盛	二 冊	一 八美图	一、十冊
一 南詔野史	四 冊	一 東華錄	一、八冊
三 番		一 古今秘苑	一、八冊
一 唐代叢書	六帙三十六冊	一 一条鉄	一、二冊
一 水滸全集	四帙三十二冊	一 檣杵間評	一、十六冊
一 同 後集	一 帙十冊	六 番	
		一 平妖伝	一 帙四冊

一 覺世名言〔十二ノ楼〕

一、六冊

一 千字文集註

三冊

一 八洞天

一、四冊

一 五雜俎

八冊

〔(1ウ)〕

一 後説鈴

四、三十二冊

九番

〔(2オ)〕

一 鉄花仙史

一、八冊

一 文選傍訓

十五冊

一 金石縁全伝

一、六冊

一 詩註集註

八冊

一 衛蔵図織

一、四冊

一 三字経

一冊

一 好迷伝

一、四冊

一 孝経傍訓

二冊

以上唐山小説

七番

一 古文孝経

一冊

一 西洋記

一、二十冊

一 後藤点四書〔後藤点〕

十冊

一 葦棚閑話

一、四冊

一 論語新改正〔同〕

一冊

一 女仙外史

一、二十冊

一 後藤点小学〔後藤点〕

四冊

一 隔簾花影

一、八冊

一 聞点孟子

八冊

一 蜀碧

一、二冊

一 聞点中庸

二冊

一 海国紀事

一、二冊

一 論孟孝文

一冊

八番

拾番

一 歴史網鑑補

二十冊

一 統史余命

拾五冊

一 訳文筌蹄

六冊

一 増補元明史略

四冊

一 大清三朝事略	壹冊	拾二番	
一 史略便蒙	三冊	一 国史	二十二冊
一 四書類編	三冊	一 江城朝儀式上下	二冊
		一 事物紀源	十一冊
		一 淇園文詠	二冊
一 新刻蒙求	三冊	一 春秋大義	一冊
一 台湾鄭氏紀事	三冊		
一 活板冬讀書錄 _余	二冊		
一 四王合伝	二冊	一 古史通	五冊
一 鏤木文字考	全	一 廿二史反爾錄	三冊
一 朱夫子治家格言	全	一 過庭紀談	五冊
一 蘭亭記	全	一 拙堂文話	四冊
一 初学臨池抄	全	一 釈尊次第 _傳	一冊
一 董其昌石刻	一帖	一 古史通或問	四冊
一 四書類編序跋	全	一 崇廟祭名録	一冊
一 書物目錄控	全	一 周易義例考	一冊
拾一番		一 中外錢史	二冊
一 明律	四冊	一 函書復号紀事	全
一 同解	六冊	十三番	
一 史記	廿五冊	一 陔余叢考	十六冊

┌(2ウ)

┌(3才)

一 日本外史	二十二冊	一 書翰書初季抄	一冊
一 大清一統志	四冊	一 貞觀政要 ^{二部}	二十冊
一 虞初新志	十冊	一 左氏伝	十五冊
一 山陽遺稿	八冊	一 同 儀式鼓吹司陳活式図抄	一冊
一 長齋文略	三冊	一 隨書	廿五冊
一 山陽詩鈔	四冊	一 周礼	八冊
一 十四番		一 易経集註	七冊
一 大清三朝実録採要	八冊	一 唐詩選	一冊
一 征韓偉略	五冊	一 南郭絶句	一冊
一 清俗紀聞	六冊	一 唐詩訓解	一冊
一 擔暴雜記	三冊	一 弊帚集	一冊
		一 外国竹枝詞	一冊
		一 欸乃一声集	一冊
		一 詩学小成	四冊
		一 詩礎国字解	一冊
		一 掌中詩聯	一帖
一 唐土名勝図会	六冊		
一 訳文筌蹄	六冊		
一 千字文集註	全		
一 増補千字文	全		
一 篆書百体千文	全		
一 建官考	一冊		
一 同 文通考	四冊		

ㄥ(3ウ)

一 韓館唱和

全

一 填詩図譜

二冊

┌(4才)

一 幼学詩韻

一冊

一 宋詩選

二冊

一 今四家絶句

二冊

一 禪林禪句

一冊

一 昇平樂事集

一冊

一 松雲問答

一冊

一 歷朝詩纂

十冊

一 鴨東四時雜詞

一冊

一 韻府一隅

四冊

一 八家集

二冊

一 詩韻兎解

二冊

一 日本名家詩選

三冊

一 増注聯珠詩格

十冊

一 詩語碎錦欠本

一冊

一 唵盃集

一冊

一 掌中詩韻牋

一帖

一 詩語碎錦続編

一冊

一 詩稿

全

一 詩学必用

一冊

一 吳船録

二冊

一 鶏肋ケイロク

二冊

一 入蜀記

二冊

一 和歌題絶句

壹冊

一 三余偶筆

十六冊

一 東海道中詩

全

一 聰訓齋話

全

一 浙西六家詩鈔

二冊

一 開元御注孝經

全

一 明七才子尺牘

欠本一冊

一 葉根譚

二冊

一 静幽堂百絶四部

四冊

一 遊名山記

二冊

一 同統

一冊

一 十八番

└(4ウ)

一 嵯州遺稿

三冊

一 佩文齋詠物詩選

二冊

一 東野遺稿

三冊

一 星堂翁花月吟

一冊

破れ 知新録

一冊

十和歌題絶句不

十冊

破れ

破れ

破れ

破れ

「(5才)

破れ

破れ

破れ

二十二番

蘭分 ハルマ

検籠韻府

二

二十三番

蘭分 ドウフハルマ

シヨメール

二

二十四番

一 貞丈雜記二本欠

十四冊

一 同安意筆記

三冊

一 同安意隨筆

三十冊

二十五番

「(5ウ)

一 翁草

四十三冊全部

二十六番

「貼紙」

一 白石叢書

三十一冊

一 同 欠本

七冊

一 東雅

五冊

一 月堂夜話

五冊

一 日觀要攷

一冊

一 岩耶群談

一冊

一 八十翁疇昔物語

一冊

一 松陰日記三部

十冊

〔貼紙下〕

＜三十二番部

一 秘書半千

二十七冊

一 撰陽落穂集

二冊

一 江戸塵拾

一冊

一 嬉遊笑覧

二冊

一 吾妻の家つと

一冊

一 塵塚譚

一冊

一 遺香の薫

一冊

一 反汗秘録

一冊

一 蝦夷行程記

一冊

一 金曾木

一冊

一 四大急務大意

一冊

一 頭陀物語

一冊

後には昔物語

一 玉川砂利

一冊

一 介錯作法

破れ

破れ

破れ

破れ

破れ

破れ

破れ

破れ

一 勢陽雜拾遺

破れ

一 玉石雜誌

五冊

一 志保之里

廿冊

一 骨董集上編

四冊

一 耽奇図説

一冊

一 三養雜記

四冊

一 仮名世説

二冊

一 源平拾遺

二冊

一 雅遊漫録

五冊

一 文教温故

二冊

一 文教温故

二冊

一 白石遺稿

二冊

一 春ノ紅葉

三冊

「(6才)

一 俗耳鼓吹
 一 茅窓漫録
 一 神岳漫筆欠本
 一 烹雜の記
 一 旅の命毛
 一 藻屑物語
 一 朝日廻免久美
 一 耳袋
 一 燕石雜志
 一 旅宿打聞
 一 思ひ出双紙
 一 玄同放言^{二部}
 一 芦の若葉付録共
 一 曳尾庵筆記
 一 諸書拔書
 一 竹橋蠹簡
 一 二十九番
 一 閑窓隨筆

一冊
 三冊
 三冊
 二冊
 一冊
 一冊
 一冊
 五冊
 六冊
 一冊
 八冊
 六冊
 五冊
 二冊
 四冊
 六冊
 一冊

一 昆陽漫録統々編共
 一 還魂紙料
 一 屠龍工隨筆
 一 桃花洞遺筆
 一 中陵漫筆
 一 北女閩記源
 一 窓のすさみ
 一 東齋隨筆
 一 尾谷筆記
 一 半日閑話
 一 易學隨筆
 一 南畝莠言
 一 年山紀聞
 一 譚海
 一 黙齋口抄
 一 「忘れ栗／那須国造碑叢考」
 一 後の為の記
 一 老翁談

八冊
 二冊
 一冊
 三冊
 三冊
 八冊
 四冊
 三冊
 一冊
 二冊
 一冊
 六冊
 一冊
 二冊
 六冊
 十六冊
 一冊
 一冊
 一冊

「(7才)

一新著聞集	八冊
一三異雜録	二冊
一日札	九冊
一薪のけむる	三冊
一とわすかたり	一冊
一近世奇跡考	二冊
一世事百談	四冊
一無名	十冊
一瀬田問答	一冊
三十一番	
一北塞譚彙	五冊
一貝原益軒先生年譜	一冊
一「中江藤樹先生／熊沢蕃山先生」年譜	一冊
一瀨水漫筆	二冊
一近世女風俗考	二冊
一浮世絵類考	二冊
一鉄炮茶話	二冊
一植崎九八郎上書	一冊

「(7ウ)

「挟み紙」	
一辺要分界図考	八冊
一坎々奇話	七冊
一西洋紀聞	二冊
一北征秘談	四冊
一仙石騷乱記	一冊
一休明光記	五冊
一「防海微言／答問十策」	一冊
一以貴小伝	一冊
一泰平年表	一冊
一鎖国論	一冊
三十二番	
第二十六番ヨリ入ルヘシ	
三十三番	
一扶桑雜事録	四十五冊
三十四番	
一安斎叢書	廿九冊

一 同 漫筆	六冊		
一 武器考証	二十冊	一得泰船筆話	一冊
一 三十五番		一 蝦夷開發考	一冊
一 一話一言	五十冊	一 北海隨筆	一冊
一 同 補遺	六冊	一 魯西亞國志世記	八冊
一 三十六番		一 三十七番	
一 八丈島筆記	一冊	一 華夷變態	六冊
一 八丈誌	四冊	一 異國往來	一冊
一 訂正増訳采覧異言	十三冊	一 遠西奇器図説	五冊
一 蝦夷志	二冊	一 和蘭通船	二冊
一 沿海異聞	一冊	一 蛮邦七境和解	三冊
一 八丈島記	一冊	一 舍蜜開宗	三冊
一 隣好始末物語解	一冊	一 輿地誌略	八冊
一 外国雜誌	一冊	一 和蘭騎養楷梯	一冊
一 外蕃通書	十冊	一 和蘭奇書	三冊
一 「山田仁左衛門暹羅話／韃靼物語」	合本一冊	一 西域聞見録	三冊
一 七島日記	三冊	一 異國船図	一冊
一 蝦夷島奇観	一冊	一 泰西七金訳説	一冊
一 蝦夷草紙	三冊	一 焉録	三冊

「(8才)

一紅毛雜話
 一氣海觀瀾
 一西音發微
 一西洋雜記
 一屬文錦囊
 一增廣蘭学佩觿
 一崑島龍之說
 三十八番
 一海外奇談
 一環海異聞
 一北槎聞略附録共
 一魯西亞異聞
 一同 漂流記
 一小豆島吉五郎
 一朝鮮通聘会要
 一同
 一銅柱余録
 一殊号事略
 一東夷考略

五冊
 一冊
 二冊
 六冊
 一冊
 一冊
 一冊
 三冊
 八冊
 九冊
 五冊
 一冊
 一冊
 一冊
 四冊
 一冊
 一冊

一安南紀略藁
 一異国船燒筆記
 一職方外記
 一魯西亞人凶說
 一魯西亞人來舶記
 一魯西亞志
 一嶮谷叢說
 一朝鮮聘使詳解
 一東韃靼紀行
 一外国通信事略
 一本朝宝貨通用事略
 一琉球狀
 一建州女直始末
 一琉球年代記
 一唐土名妓伝
 高野山事略
 三十九蕃
 一靖台実録

一冊
 一冊
 五冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊
 一冊

「(8ウ)

「(9才)

一 漂流記	五冊	一 唐方諸出役向一件	一冊
一 漂流人問答	一冊	一 唐人番勤方手割人数書	一帖
一 生島村十吉漂流記	一冊	一 三国通覽図説	一冊
<small>文政八四年</small>		一 大島華記	三冊
一 御覽漂民紀事	一冊	一 長崎要用便覽	三冊
一 文政丙戌漂流記	一冊	一 御手附様御除物銀帳	一冊
一 無人島漂流記	一冊	一 大阿蘭陀通詞名村東照義加比丹江書通	一冊
一 「漂流事略／火浣布事略」合本	一冊	一 長崎志書拔	一冊
一 遭厄日本紀事	八冊	一 唐人番勤方之覚	一帖
一 天正漂流之記	一冊	一 瓊浦偶事	二冊
一 漂流人口書	一冊	一 華夷通商考	五冊
一 津田村勝之助漂流記	一冊	一 唐紅毛買後停止之品々	一冊
一 漂海咨文	一冊	一 長崎志板本	二冊
一 番人口書	一冊	一 瓊浦通	二冊
一 漂泊奇談	一冊	一 羅叉菓	一冊
一 生嶋舟子漂流記	一冊	四十番	
	「(9ウ)	一 花染日記	二冊
一 唐船阿蘭陀船出銀支払方書	五冊	一 身延山紀行	一冊
一 阿蘭陀方使役文略書	一冊		
一 横文字和解	一冊		
			「(10才)

一 奥州松前行程記	二冊	四十一番	
一 筑波紀行	十冊	一后宮名抄	一冊
一 東海紀行		一大嘗会次第	一冊
一 光榮卿木曾路紀行	一冊	一日本歲時記	四冊
一 東国旅行談	一冊		
一 梅桜日記	一冊	一武家官位昇進次第圖	一冊
一 西遊旅譚	二冊	一古図類從	一冊
一 大和記	一冊	一大内御造營	一冊
一 琴浦道之記	一冊	一玉英御記	一冊
一 月波日記	二冊	一職原抄弁疑	三冊
一 著作堂羈旅漫録	三冊	一世俗淺深秘抄	二冊
一 東遊雜記	六冊	一歌舞名物同異抄	三冊
一 奥州はなし	一冊	一当家着用装束抄	一冊
一 宝曆十年庚辰正月東行ノ話説	一冊	一竹園系図	一冊
一 祖谷紀行	一冊	一公家諸法度	一冊
一 秀鶴旅行記	二冊	一有識問答	一冊
一 房総志料	五冊	一光格天皇御葬送之記	二冊
一 陸奥話記	一冊	一院中政事略	一冊
一 日光巡拝図誌	一冊	一年中行事細記	一冊

┌
(10ウ)

一職原抄述解	十一冊	一甲陽軍鑑	十二冊
一万世雲上明鑑	二冊	一瑠璃宝鑑	一冊
一〔崇光院御記／園大納言基勝卿記〕	合本一冊	一冊掌術砲	四冊
一建武式目	一冊	一練銃頭口義	二冊
一服飾彩図	三冊	一三銃秘書	一冊
一桃花藥葉	一冊	一武田兵法单騎卷	一冊
一服飾彩図註	一冊	一トントロ製法	一冊
		一踏水訣	一冊
		一武侯心書	一冊
一雲上雪月花	六冊	一神器譜	五冊
一御即位式	一冊	一兵器録 <small>十三欠本</small>	一冊
一職原抄支流	一冊	一西洋火攻神器説	二冊
一神皇実録	一冊		
一舞楽図	一冊		
一御即位調度之部之内	一包	一荻野流相図書	一冊
四十二番		一練心膽口義	二冊
一鈐録外書	一冊	一荻野流玉丁矢倉附本書	一冊
一武教三等録	三冊	一新岩戸流花火伝	一冊
一紀効新書	六冊	一種ヶ島流伝書折本	廿八冊
一礮術備要	一冊	四十三番	

┌(11才)

┌(11ウ)

一握奇集解或問	三冊	一兵法手練談	一冊
一握奇八陣集圖	一冊	一大和流半弓書	十冊
一長沼流器械制口義	二冊	四十四番	
一異艦戰法記	一冊	一武備志	百冊
一孫武兵法挾	三冊	四十五番	
一火攻知要	一冊	一愚得隨筆	十四冊
一機將伝卷	一冊	一本朝軍器考	十四冊
一末書摘要抄附録城捕習手引	一冊	一同 翼	四冊
一武教全書	十五冊	一同 頭書	六冊
一海国兵談	一冊	一同 標疑	一冊
一長沼流機械卷	一冊	一同 補正評	一冊
一武備抄	二冊	一安多武久路	三冊
一武教全書	七冊	一手綱図式	一冊
一練心膽器械制口義	一冊	一鞍鐙新書	五冊
一兵要録口義	五六卷欠十冊	一母呂事記	一冊
一兵要録口占書	一冊	一奥羽軍器詞書	一冊
	┌ (12才)	一甲冑製作弁	三冊
一兵要録聞書	一袋	一大正流軍馬之卷	一冊
一兵要録口義	欠本五冊	一武具短歌	二冊

ㄥ (12ウ)

- 一 胄類図式
- 一 傘笠考
- 一 小的之書
- 四十六番
- 一 座右書
- 一 軍用記
- 一 犬追物
- 一 馭馬故実
- 一 甲組類函
- 一 包結図説
- 一 馬見参入記
- 一 夏草
- 一 法量狩詞下馬札
- 一 諸鞍日記考註
- 一 美人草射儀
- 一 大内義興問条数返答
- 一 將軍御元服記
- 一 書札并雜々聞書

- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 七冊
- 七冊
- 六冊
- 二冊
- 二冊
- 二冊
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全

- 一 大的之式
- 一 酌并記
- 一 一條々聞書
- 一 出陣之聞書
- 一 一首実檢法式
- 一 軍礼抄
- 一 一八の之記
- 一 雜兵物語
- 一 結記
- 一 随兵次第
- 一 甲胄名考
- 一 似匠誤考
- 一 「武備根元／政要録」
- 一 射家忘説集
- 一 馬鐙鞍合本
- 一 騎射秘抄
- 一 大的略式
- 一 後三年戦争集

ㄥ (13才)

- 全
- 二冊
- 二冊
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全
- 全

一 後三年詞書	全	一 鮫皮精義	二冊
一 鷹請取渡事	全	一 刀劍弁疑	三冊
一 鷹秘伝書	全	一 古今名画大全	五冊
一 鎧直垂仕立之事	全	一 装剣奇賞	七冊
一 「安徳帝厝西実録／箴矢搦秘本／百将取合図」	全	一 四十九番	
一 標題ナシ	二冊	一 貳拾一代集	五十冊
一 四十七番		一 五十番	
		一 竹取物語	六冊
		一 扶桑拾葉集	三十五冊
一 統安斎叢書	三十冊	一 五十一番	
一 愚得隨筆	二冊	一 源氏物語	五十七冊
一 赤鳥考	一冊		
一 故実書 ^{無名}	四冊	一 瀬月抄源氏歌	一冊
一 旧記類聚拔萃	二冊	一 五十二番	
一 武器図説	十三冊	一 源氏物語忍草	五冊
一 故実拔要	一冊	一 道晃法親王御集	三冊
一 躰拔要	一冊	一 増補和歌題林抄	十一冊
一 四十八番		一 後水尾院御直	一冊
一 古今要覽	二十六冊	一 寛政十午歳詠草	一冊
一 校正古刀銘鑑	四冊		

「(13ウ)」

「(14才)」

- 一 万葉集拾穗抄
- 一 新名題和歌集
- 一 烏丸光榮公和歌
- 一 考妣詠草
- 五十三番
- 一 和歌枕詞補註
- 一 新吉原細見狂歌集
- 一 和歌秘說
- 一 詠月吟
- 一 助辭本義一覽
- 一 狂歌五十人一首
- 一 禁裡新殿之和歌
- 一 詠草添削書
- 一 家嚴遺墨

- 三十冊
- 五冊
- 四冊
- 一冊
- 五十三番
- 二冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 二冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊

┌
(14ウ)